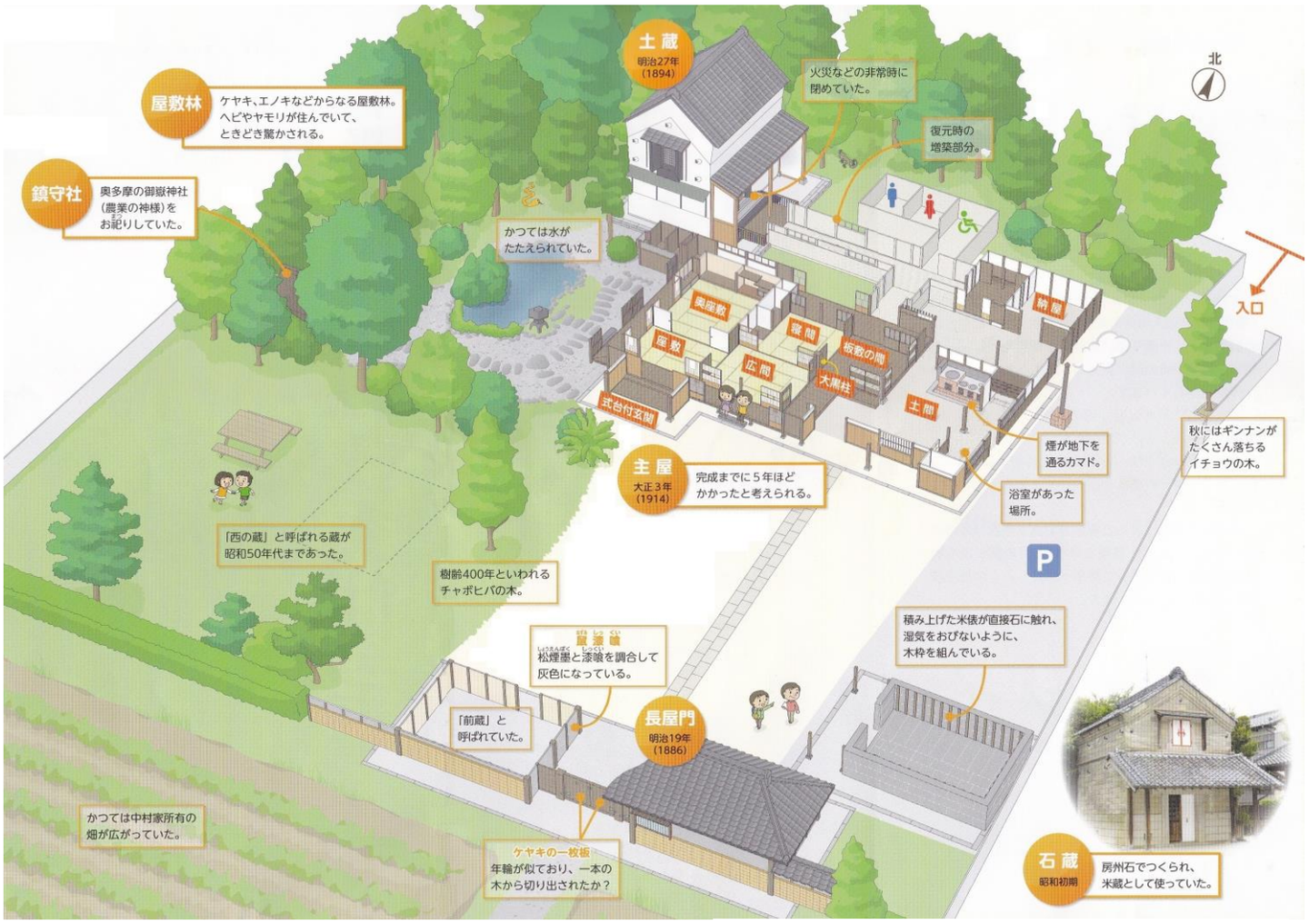
1　旧大間野村と中村家について

● 現在の中村家住宅のようす ●



（越谷市教育委員会の作成したパンフレットより引用）

● 中村家の歴史 ●

中村家は「四郎兵衛様」の屋号で呼ばれ、家伝によると豊臣方の小西行長の家臣で、関ヶ原合戦後に徳川方へ従い、兄弟及びその一族郎党と共に関東に移住し、この地を開拓したと伝えられています。代々中村四郎兵衛を名乗り、江戸時代には旧大間野村の名主を勤めていた。大間野の真言宗寺院、真龍山光福寺（善賀[寛永 18 年 1641 年寂]が開山）は中村家の菩提寺であり、その開山にあたっては江戸時代初めに同家が境内地を提供したと伝えられています。

江戸時代中期には当主四郎兵衛が大間野村の名主とともに、伊奈代官所の郷手代も勤めていました。郷手代は代官所が管轄する村々の有力者から選ばれ、年貢徴収や諸通達を村々に伝える役職で、名字帯刀が許されていました。

幕末には中村家の西の蔵に上野彰義隊の残党を匿い、手当ての後に会津へ逃がしたことや、明治維新後まもなく有栖川宮が黒田清隆・桐野利秋などと共に狩りの際に休息したとも伝えられています。

維新後は、賢之輔（天保 11 年～大正 5 年）、貞次郎（安政 5 年～昭和 8 年）、亥之輔（明治 32 年～平成 8 年）と当主が引き継がれました。明治 5 年に区戸長制が実施されると中村賢之輔が第二区（越ヶ谷・増林・蒲生など 28 町村）の副区長に就き、さらに明治 17 年・18 年には南埼玉郡を代表して埼玉県議会議員を務めた地方の名望家でした。この賢之輔の代に長屋門・土蔵・納屋が整備され、次の貞次郎の代に主屋が再築されました